

学習院大学史料館所蔵史料目録 第十一号

武蔵国秩父郡上名栗村町田家文書(三)

凡 例

一 本目録は、昭和四二年五月一〇日に町田雅男氏から学習院大学に寄贈された、武蔵国秩父郡上名栗村（現在の埼玉県入間郡名栗村大字上名栗）町田家文書の近世状態文書のうち、村方関係文書の一部の目録である。

一 〈文書の分類〉

文書は主題分類を施し、各分類ごとに年代順に配列した。但し、廻状の「村内触」の項目に関しては名主順とした。文書の内容が複数の分類項目にわたる場合には、主たる主題と思われる項目に分類した。

一 〈文書番号〉

一文書に一番号を原則とした。ただし、一括して保存されていたり、綴られていた文書で、一括の単位を重視した方がよいと判断した場合には、枝番号を付した。その際、分類項目は枝番号の一つを代表させた。なお、枝番号は、確定できる年代の初年に合わせて編年している。

また、文書番号は近世文書の通し番号となるため、近世冊子型文書の目録〔学習院大学史料館所蔵史料目録 第八号 武蔵国秩父郡上名栗村町田家文書（一）〕・『学習院大学史料館所蔵史料目録 第九号 武蔵国秩父郡上名栗村町田家文書（二）』番号の続きである。

一 〈年代〉

作成年代を表記した。本紙の年記をとるが、推定できる場合は（ ）で補い、包紙からの情報は「」でとった。年号はアラビア数字としたが、晦日・大晦日は原文のままにした。極月も原文のままとしたが、年代が特定でき、閏か否かがわかるときには「12月」・「閏12月」と表記している。原文書に干支があり、年代が推定できる場合には、年代欄に（ ）で推定年代を表記した。

なお、コンピューター入力にあたり年代をコード化したため、年代欄に記入されていた干支をはじめ、「吉日」、「朝」、「済」、「改」、「分」、「第」などの情報は省略した。

一 〈文書名〉

文書の原表題を採ることを原則とした。ただし、原表題だけでは内容が不明瞭なもの、原表題がないものについては、目録作成者

が必要に応じて（ ）で補った。（ ）表題内は、固有名詞以外は新字に直し、できる限り現代仮名遣いを用いた。

一 〈差出（作成）・受取〉

旧字・作字は原文通りとしたが、敬称などは省略した。村名・組名・人名が複数の際には、その一つを代表させた。差出・受取とも補えるものは（ ）で補い、本紙に盛り込まれていない包紙の情報は「 」で補った。

一 〈形態〉

形態は、縦、横切、縦折、横切、横折、折、折本、包紙、袋、封筒、短冊、付札、札、付箋、などとした。ただし、今回の目録はこの内の一部しか使用していない。

その他、美濃判は縦二七〜二八センチ以上を基準とし、「美」と表記した。横帳、縦帳が損壊し一紙になったものは、（横帳）、（縦帳）と表記した。

一 〈数量〉

数量は、一個体を一点として数えた。例えば、包紙と本紙が別々の個体の場合は二点と数えている。

一 本館では、近世は明治四年以前としているが、枝番号の関係で明治五年以降の文書が含まれる場合もある。